

平成 7 年度地震研究所職員研修会

佃 為 成（職員研修委員会）

地震研究所の職員研修会は、平成 4 年度から始まったが、これまでは地震研究所本所での講義や講演と都内の防災関係施設などの見学を行ってきた。今年度は、会場を本所から千葉県富津市の地震研究所地殻変動観測センター鋸山地殻変動観測所に移し、1996 年 2 月 1 日、2 日の両日に行われた。施設の見学や南関東の地形を眺め、日頃の観測研究の実際を学ぶ趣向であった。現在の職員研修会制度発足前は、観測所研修という観測所の職員を中心にした研修制度があり、各観測所の持ち回りで、それぞれの施設において見学や研修を行ってきた。今回、それに近い企画を立てたが、本所勤務の多くの方々が参加した研修会となった。数年に一回ぐらいは、このようなスタイルの研修会を

催していきたいものである。

鋸山観測所は、道路工事に伴う旧観測所の移転により、1992 年に新しい観測坑が完成し、1994 年 3 月に開所式を挙行了新しい観測所である。そこでは新しい計器による地殻歪、応力、震動などの諸観測や実験が行われている。

研修会初日は、まず、観測所の観測坑および庁舎を見学した。観測所では前日から、水管傾斜計や伸縮計の実際の測定が正しいかどうかを検定するため、アクチュエータと称する駆動装置を制御して擬似的な変位を発生させ、センサーの特性の検定作業中であったが、その様子の視察もできた。

その後、ロープウェイで鋸山山頂へ登り、房総半島南部、

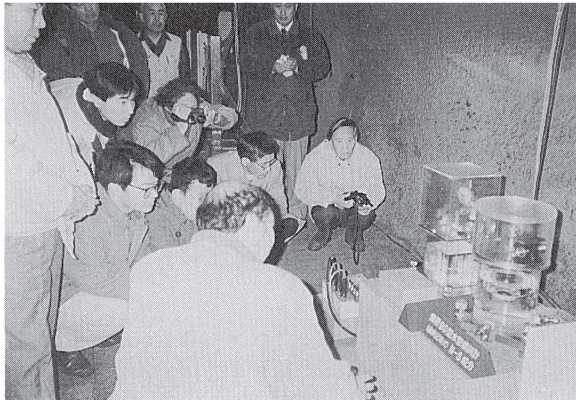


写真 1. 観測坑での見学風景.

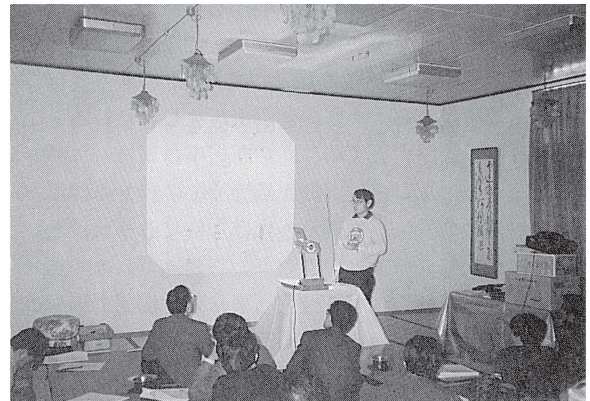


写真 3. 講演会の風景.



写真 2. 地殻変動検潮所での見学風景.

東京湾、三浦半島、伊豆半島、伊豆大島を一望し、下山して地殻変動検潮所を見学、安房勝山の宿舎へ向った。夕刻、緊急時の対応に関する短い講演があり、そのあと懇親会やカラオケ大会で親睦を深め合った。二日目は講演会。鋸山で行われている高性能長周期地震計のノイズの原因をさぐる実験の話や地震動の回転震源や地下構造を探索する新しい試みの話、海外技術協力としてエジプトでの地震観測網建設の話、工作機械の使い方のノウハウについて、事務部庶務掛での外からの電話の対応にまつわる話、情報の最近の話題とパソコン、携帯電話、デジタルカメラなどの情報機器の活用の話、通信衛星を用いた地震テレメータ観測の話があった。

他大学から参加した8名を加えた45名の参加者それ

ぞれ、地震研究所で行っている研究や業務についての認識を新たにしたのではないだろうか。

参加者は下記の通り。

講師：深尾良夫、武尾 実、鷹野 澄、卜部 卓、羽田敏夫、浅田 鉄太郎、小林佑子、笹井洋一、石井 紘
地震研：瀬川真佐子、山中佳子、千葉平八郎、渡邊唯夫、吉野登志男、高橋辰利、若杉 忠雄、小山悦郎、辻 浩、新谷昌人、酒井 要、小林 勝、橋本信一、石川良宣、原山千谷、田上貴代子、小山 茂、加藤育子、馬場雅夫、赤崎公一、野口和子

北大：石川春義、一柳昌囊

東北大：橋本恵一、佐藤俊也、立花憲司

名大：中村 勝、宮島力雄

京大：中川 渥

世話係：岩崎貴哉、坂 守、佃 為成、中尾 茂、松本滋夫、平田安廣

また、講演者と題目は以下の通りである。

深尾良夫：グローバル地震学における実験観測の意味

武尾 実：地震の姿を探る新しい地震観測の可能性

羽田敏夫：エジプトでの地震観測網設置技術協力

浅田鉄太郎：工作機械のうらワザ

小林佑子：外線電話のいろいろ

鷹野 澄：情報ネットワークの最近の話題

卜部 卓：衛星によるテレメタリング地震観測計画

笹井洋一：「緊急時における研究所の機能確保の方策に関する検討会」について